

学校教育目標	重点目標(中・長期目標)	総合評価		評価	
高度な専門知識、技術ならびに幅広い視野と豊かな人間性をもった、明日の農業・農村を担う優れた人材を育成する。	理論と実技を同時に学ぶ実践型の教育により農業技術の高度化・経営の専門化に対応する知識、技術を習得させるとともに、寮生活や自らテーマを定めて行うプロジェクト学習等により他者との協調・自己の確立等の社会性を涵養し、21世紀の農業・農村を担う優れた人材の養成を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> 学生の目的意識や基礎学力により、習熟度に差は見られるものの、講義や実習による専門知識、技術の習得、並びに、寮生活やプロジェクト学習により協調性、社会性、自主性を磨くなど、目標に沿った人材育成が図られた。 農大改革4年目となり、実践経営者コースは3期生が全員就農することとなった。農業経営コースは学習意欲の向上は見られるが、進路について就農を目指す学生は伸び悩んでいる。 		B	
	今年度の重点目標	成果(○)と課題(●)	改善策	評価	
	農業大学校改革の着実な推進による長野県農業を担う人材の育成と就農者の確保を促進する。				
	1 授業内容の充実を図り、農業実践教育を通じて自立した社会人を養成する。	<ul style="list-style-type: none"> 3観点の導入やアンケート等により、授業の充実に取り組んだ。 農業・農村の担い手となる新社会人44人を送り出す。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き授業充実に努める。 	B	
	2 実践経営者コースの運営を円滑に推進し、平成30年度入学者の確保に努めるとともに、平成31年学生募集に向け、コースのあり方を検討する。	<ul style="list-style-type: none"> 職員の連携により、コース運営は概ね円滑にできた。 ●求める人材の確保が難しい。 定員10名→応募者9名→合格者3名 コースの問題点、課題、今後の方向性について、協議を始めた。 	<ul style="list-style-type: none"> コースのPR強化、効果的な募集活動の実施。 応募者のニーズをとらえた、実践経営者コースのあり方を検討する。 	C	
3 就農支援プログラムによる支援、法人説明会の開催などにより、学生の就農率向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> 農業法人説明会、就農支援プログラムによるきめ細かな就農支援等により、就農へ結び付いた。 農業経営コース就農率32.5%(前年37.8%) 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き効果的な就農支援に努める。 	B		
4 農大の魅力情報の発信に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ホームページでの発信やテレビ番組で放送されるなど、情報発信に努めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き広く魅力発信に努める。 	B		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価																											
教育活動	学習指導	授業実習内容の充実を図る	<ul style="list-style-type: none"> ねらい、展開、見とどけの観点で授業を行うとともに実物やパワーポイント等を用いたわかりやすい授業を行ったか。 現場で使える知識、技術、時代変化に対応した授業の視点から授業の改善ができたか。 中間テスト等による学生の理解度の把握や学生へのアンケートの実施、昨年度のアンケートを踏まえた授業の改善ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○授業実施状況 <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">項目</th> <th colspan="3">充足率</th> </tr> <tr> <th>H29</th> <th>H28</th> <th>H27</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>3観点による授業</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>98%</td> </tr> <tr> <td>実物を用いた授業</td> <td>59%</td> <td>70%</td> <td>68%</td> </tr> <tr> <td>パワーポイントを用いた授業</td> <td>55%</td> <td>55%</td> <td>45%</td> </tr> <tr> <td>中間テストを用いた授業</td> <td>14%</td> <td>23%</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>その他の取り組み</td> <td>71%</td> <td>75%</td> <td>70%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> ○技術科目を中心に実物やパワーポイントを用いた分かりやすい授業に心掛け、コラボ授業や果樹類コンクール等を活用し、新しい技術や知識等を積極的に取り入れるようにした。 ○中間テストや小テストは、野菜、畜産、数学、英語等で実施した。 ○本年度の授業アンケートは前期分を10月に、後期分を1月に実施した。 ●各年度の平均評点は、1学年では3.68～3.88、2学年では3.59～4.01であったが、H29後期評点は両学年とも前年度より低下した。 ○前期アンケート結果に基づき職員及び教務内で検討し、後期授業の改善を図った。また、後期アンケート結果に基づき授業の改善効果を確認するとともに、翌年度の授業改善につなげている。 	項目	充足率			H29	H28	H27	3観点による授業	100%	100%	98%	実物を用いた授業	59%	70%	68%	パワーポイントを用いた授業	55%	55%	45%	中間テストを用いた授業	14%	23%	17%	その他の取り組み	71%	75%	70%	<ul style="list-style-type: none"> アンケート結果も踏まえ、引き続き授業内容の充実に努める。 	B
			項目	充足率																													
				H29	H28	H27																											
			3観点による授業	100%	100%	98%																											
実物を用いた授業	59%	70%	68%																														
パワーポイントを用いた授業	55%	55%	45%																														
中間テストを用いた授業	14%	23%	17%																														
その他の取り組み	71%	75%	70%																														
<ul style="list-style-type: none"> ○ 学生の授業、進路、寮生活などに関する要望を面談などにより随時把握し、より良い学校づくりの参考にしたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○1年・2年ともに、個人面談やメール・SNS、自治会役員会等により要望を把握、学校づくりの参考とし、可能なものは改善した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、面談や自治会役員との話し合いにより要望の把握に努め、よりよい学校づくり、環境整備に努める。 	B																														
<ul style="list-style-type: none"> ○ 1年生によるプロジェクト見学は、事前指導により質疑応答など活発に実施できたか。 ○ プロジェクトは、学生の能力に応じて経営管理能力を習得させるよう、全学生が経済性の検討を取入れるとともに、労働時間の比較など一層の向上が図られたか。 ○ 1年生は全ての専攻でミニプロジェクトが実施されたか。 ○ プロジェクト生産物を自ら販売し、経営感覚を学べるよう販売体験機会を増やすなど改善が図られたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○各専攻で1年生がプロジェクト活動を学習し、見学することができたが、質問が少なかった。 ○全学生がプロジェクトにおいて「経済性」の検討を行った。また一部課題では、労働時間や疲労度など、「労働性」の評価を取り入れた。 ●作物・野菜・花きで全体または個別でミニプロジェクトを実施したが、果樹・畜産では未実施だった。 ○授業として農大マルシェ「のうだい屋」を8回実施し、専攻毎に商品説明を行い、消費者と顔を合わせた販売体験ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> プロジェクト見学前に、事前学習を行い、質問項目の整理を行う。 ・経済性は単なる収益比較でなく、収入や費用の積算を行えるようにする。 ・1年は全ての専攻でミニプロジェクトを実施し、2年のプロジェクトにむけ準備する。 ・農産物の生産にあわせ、引き続き販売体験、マーケティング手法の習得のため実施する。 	B																														
<ul style="list-style-type: none"> ○ 各種資格試験や検定試験を奨励し、学生の学習意欲を高められたか。 ○ 合格率向上に向け、授業を改善できたか。 ○ 受験に当り、学生への事前学習を実施したか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○農業技術検定合格者は、2級9名(受験者17名)、3級4名(受験者4名)となり、合格率は62%(前年比+15ポイント)となった。 ○農業簿記検定3級は、実践経営者コース1年4名と農業経営コース2年39名が「農業簿記」を履修し受験した。合格率は23%(前年比+9ポイント)であった。 ●毒物劇物取扱者資格試験は、「農業薬剤論」を農業経営コース1年生の選択科目とし、1年生は33名が受験した。2年生も含む毒物劇物取扱者資格の合格率は24%(前年比△15ポイント)となった。 ○大型特殊免許等は、事前練習により全員合格した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、受験率や合格率目標を定め資格試験や検定試験の受験を推奨する。 ・合格率向上のため、事前学習の実施を指導する。 	B																														

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価	
		実践経営者コース運営の円滑化を図る	<ul style="list-style-type: none"> 職員間の連携により、授業計画、授業管理などのコース運営と就農支援が一体的に実施できたか。 1年次における各論実習の充実、目的意識を持った農業経営体験実習ができたか。 専門的実践的講義、実習により、農業経営者に求められる4つの力を身につけることができたか。 模擬経営を通じて、就農後予想される課題の把握と対応策が検討できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 技幹・担当教授・専攻教授が連携を取り、講義・実習や就農時の品目検討、農地確保活動などの就農支援を一体的に実施でき、コース運営は円滑に機能した。 各自が必要な授業を選択したり、先進農家等への視察等により、4つの力の習得を進めた。 1年生は、就農時の栽培品目を年度当初に決定し、品目別の各論実習や農業経営体験実習で不明確な事項を、各教授に確認しながら、実習を進め、模擬経営の計画作成ができた。 ●2年生の中には授業の欠席が多く、自ら判断し行動する自立性がやや欠けた者が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、コース運営と就農支援を一体的に実施。 実習による技術力の習得、目的意識を持った模擬経営の実施。 	B	
			<ul style="list-style-type: none"> 実践経営者コースの課題を踏まえ、31年度学生募集に向け、コースのあり方が検討されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○コース見直し検討会を開催(6月、7月、9月)し、見直し(案)を作成した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、コースの課題の把握と対応に努める。 H31に新たなあり方検討会を実施する。 	B	
		効率的・計画的な農場利用で学習効果を高める	<ul style="list-style-type: none"> 十分な専攻実習やプロジェクト活動ができるほ場面積やハウス等を用意する。 果樹園の改植によるぶどう園の拡大はできたか。 実践経営者コース2年生の模擬経営実施のための農場や施設等の確保・調整ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○事前の調整により、圃場は十分なほ場の確保ができた。特に実践経営者コース模擬経営の果樹圃場は、校外ほ場の継続借り入れ等により確保ができた。 ○プルーン園の改植により、新たに9aのブドウ園の造成を行った。 ●プロジェクト課題によっては、環境的に条件の悪い圃場でのプロジェクトとなり、調査成績が不安定となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き実践経営者・農業経営コースの調整を事前に行う。 新植ブドウ園は計画的な管理により、早期成園化を図る。 条件の悪い圃場を利用しない作付け計画や新たな圃場借り入れを検討する。 	B	
			<ul style="list-style-type: none"> 収穫時期を踏まえた作付により、年間通したほ場の有効活用が図られたか。 1年生は、基礎的技術の習得と併せて販売を目的とした作付けができたか。 1年生は、適期に必要な実習ができたか。また、現地体験実習前に、基礎的な知識、技術が理解できたか。 特別教授の弾力的な業務分担等により、各専攻とも適期には場管理ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○収穫時期を踏まえた作付(農場等の利用計画)を行い、情報共有を図り、年間を通したほ場の有効活用を図った。 ○「のうだい屋」での販売を目的とした作付けを行った。 ●現地体験実習前に、基礎的知識や技術を習得する機会を設定したが、一部研修受入農業者よりはさらなる資質の向上が要望された。 ○各専攻毎の繁忙期には、業務の補完により適期のほ場作業ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き農場の有効活用、実習の適期実施に努める。 現地体験実習時期の検討を行い、開始前により十分な準備ができるようにする。 	B	
		進路指導	個々に適した進路選択、決定、実現を図るとともに、円滑な就農を推進する	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は10月末を目途に将来の進路を決定するよう指導できたか。 2年生は2月末を目途に就農及び就職先等決定するよう指導できたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、4月の全員個別面談で専攻や進路希望聞き取り、10月には就農希望者について個別面談を実施、11月には三者面談を行い、適切な進路指導を実施した。 ●2年生は、4月に個別面談、保護者面談を実施し、全員が卒業後の進路を決め、活動を行ったが2月20日現在の進路内定は95%(前年比△5ポイント)である。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路を早めに決めることにより、学習意欲の向上に努める。 学生自らが進路について考え活動し、暦年内に進路を決定できるように指導する。 	B
				<ul style="list-style-type: none"> 農業経営コースは、円滑な就農に向け、農業経営演習を充実できたか。 インターシップや法人合同説明会等を通じ円滑な就農への取組みができたか。 就農支援プログラム等に基づく就農形態に応じた個別、計画的支援ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生は、就農までの道すじ、農業法人の概要、支援制度、農業経営指標等を授業で取り上げ、また現地実習では先進的農業法人での農場実習等により、就農への理解、意識を高めた。 ○農業法人合同説明会(25社参加)では、2年生3名が法人就農に結び付いた。 ●2年生の就農希望13名(①自家就農3名、②法人就農9名③海外研修1名)について、プログラムに基づき支援チームで個別支援を行った。1月末現在で、1名を継続支援している。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、就農形態に応じた個別支援を実施。 法人説明会等で自ら情報収集できるような支援。 法人就農希望者で未定の2人について、引き続き支援を実施。 先進的農業経営体への視察等を多く組み、意見交換等を行うことにより、就農への意識を高める。 	B
<ul style="list-style-type: none"> 実践経営者コースは、就農支援プログラムに基づき、就農形態に応じた計画的、きめ細かな個別就農支援ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 1年生4人は個別支援により就農地を決定し、独立自営・親元就農(経営継承)希望の3名は就農時の経営品目も決定し、関係機関と連携して農地確保等の支援を行った。また雇用就農希望する者は1名。なお、農業次世代人材投資事業(準備型)について、希望する4名全員が承認された。 2年生3人のうち、親元就農(経営継承)で規模拡大希望の1名について関係機関に農地確保の相談を行っているが、条件に合った農地がなかなかみつからない。同じく親元就農希望の1名は自家農地主体のブドウ経営を計画している。また雇用就農希望の1名については、就農先が決定した。 			<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、早い時期から、関係機関と連携し、個別支援を実施する。 	B		
就職・進学情報の提供	<ul style="list-style-type: none"> 学内掲示板、専用サイト、HRなどを活用した求人情報の提供がなされたか。 		<ul style="list-style-type: none"> ○求人情報を学内の掲示板や2年生のホームルーム等を通じて、求人情報の提供を行った。 ●学校HPを利用した求人情報の提供はできなかった。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き学生個々の希望に応じた情報提供を実施する。 	B		
教育活動	社会的規範意識を高め、基本的な生活習慣の育成に努める	<ul style="list-style-type: none"> 交通安全・防犯・健康講座などを通じて、生命尊重や社会的ルールを守る意識を高めることができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> 4月に交通安全・防犯研修会、5・11月に健康講座、8・11月に交通安全講座等により、生命尊重や社会モラル等の啓発等を行った。 ●注意喚起をしたにもかかわらず、学生の不注意による重大な加害事故が複数発生し、複数の学生が負傷した。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き交通安全・防犯研修、健康講座等により啓発を実施する。 	C		
		<ul style="list-style-type: none"> 寮生活や自治会活動を通じて、規律ある生活や組織運営など社会人としての意識を高めることができたか。 学年担当者会議や学生部の打ち合わせが定期的に行われ、教授間の情報共有や役割分担、全員で指導する体制ができたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会は、役員がそれぞれの役割を理解し、率先して寮運営や規律ある生活について、責任ある行動や指示を行い、組織的に運営された。 ●4月入寮及び8月の部屋替え時に、規則正しい寮生活を指導したが、朝・夜の点呼の欠席や欠食などが規律違反が出ている。 ○学年担当職員会議を随時開催し、教授間の情報共有、役割分担、指導体制・方法等の確認を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 自治会を通じた話し合いと、職員全員による指導を強化により、社会人意識の向上を図っていく。 	B		
	自他の生命を尊重する精神を養い、豊かな心を育成する	<ul style="list-style-type: none"> 寮生活を通じ、先輩・後輩の関係を学び、他人を尊敬し思いやる心を育てることができたか。 農業経営コース1年生と2年生との、農業経営コースと実践経営者コースとの交流が図れたか。 全ての自治会専門部が定期的開催され、自主活動が強化されたか。 	<ul style="list-style-type: none"> ○自治会活動(クラブ活動等)や寮内でのイベントなどを通じ、それぞれの立場で学生間の交流を行っている。 ○実践コース学生からのアプローチにより、両コース間の交流が積極的に行われた。 ○役員活動により、多くの専門部で執行委員会に合わせて定期的に部会を開催し、自主活動が強化された。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き自治会活動を通じて学生間の交流を図る。 特に活動内容に波がある専門部には、年間事業計画を検討させ、部会の定例開催を図る。 自治会活動が活発に行われるよう新役員に働きかける。 	B		

領域	対象	評価項目	評価の観点	成果(○)と課題(●)	改善策	評価
教育設備の充実と適正な管理	農業機械や施設機器の充実と適正な管理		○ 水田の漏水、排水対策は実施されたか。 ○ 農場実習等の農作業に必要な機械・設備は充分確保されているか。 ○ 農業関連企業との連携や職員研修により、導入した農機・設備の効率的利用ができたか。	○水田の漏水・排水対策を実施し、適正な水使用に努めた。 ○刈り払い機など必要な機械の更新を行い、また始業前点検を行い、導入した農機・設備の有効利用を図った。 ○農業機械メーカーとの連携授業により、プロジェクト学習や農業機械の効率的な活用を図った。 ○職員研修は、農機メーカーの協力を得て、農作業安全対策について実施した。	・水田の適正な水管理により効率的な機械運用を図る。 ・農機メーカーとの連携を進め、農業機械の適正な使用・効率的な利用に努める。	B
			○ 農業機械・施設・機器の故障・修理情報が職員間で共有されるとともに、使用後の保守点検のルール化や使用簿への記入などにより、適切な管理運営が行われているか。 ○ 使用できない機械の廃棄が行われたか。 ○ 実習棟・機械庫等は、定期整頓日の設定などにより整理整頓がなされているか。	●上半期に負担のかかる使用や不注意により、トラブルが発生し故障および損傷が見られた。 ○農業機械・施設・機器の故障や修理情報を職員間で共有できた。 ○農業機械の点検、修理等は適正に行われた、点検修理車両は掲示板に表示した。 ○総合農場管理棟(格納庫)、機械庫を定期的に清掃した。	・機械の丁寧な取り扱い、使用後は洗浄、給油し、使用簿を記入して、格納するように徹底する。 ・管理棟等は、引き続き定期的な清掃に努める。	B
	学校用地や施設の適切な維持管理	○ 定期清掃日の設定などにより、農場以外の学校用地や施設の維持管理が適切に行われたか。	○校舎及びその周辺について、月1回定期清掃の時間を設け、学生が清掃を行った。 ○学生寮は自治会による自主的な清掃を実施した。	・引き続き定期的な清掃を実施する。	B	
学校運営	農大の魅力発信と学生確保の活動	学生募集のPRを更に充実する	○ 学校案内や学生募集・オープンキャンパスのポスターを作成・配布し、農業大学校への関心を高めることができたか。	○学校案内の冊子を県内高校や希望者に配布、さらに学生募集のチラシを作成し農業高校3年生に配布した。 ○農業経営コースについては、昨年並みの出願者を確保できた。	・学校案内、チラシを注意を惹く(手に取ってもらえる)ものにするか、更なる検討を行う。	B
			○ 実践経営者コースは、就農に向けた相談会及びコース説明会の通年実施や農業高校への働きかけ等により、効果的な募集活動ができたか。 ○ 専用ブログやメディアの活用等により、授業内容や卒業生の営農状況の紹介動画など、効果的なPRができたか。 ○3回の入試により、実践経営者コースの平成30年度入学者10名が確保できたか。	○県内外の就農相談会で、就農相談やコースの周知を行い、受験生募集活動を実施した。 ○新たにコース説明会、コース体験授業、就農相談会in農大を実施した。 ○初めての学生募集新聞広告(8/27信毎)の掲載、県内農業関係雑誌、全国版農業情報誌(田舎暮らしの本等)への掲載による情報発信を行った。 ○募集リーフレットの作成と農業経営者協会、農村女性マスター協会へのDM発送、農業高校等関係機関への配布を実施した。 ○農大HPブログでの実践コース授業の紹介(31回)や外部講師の授業動画のYouTubeへのアップ(5回)等によりPRを行った。 ○県内放送局(abn)の実践コース卒業生の就農状況ニュース、日本経済新聞(全国版)での実践コースの紹介など、メディアを活用した情報発信に取り組んだ。 ●募集活動を強化しているが、応募者が低迷し、年々応募者が減少している。定員10名→応募者9名→合格者3名。	・県内外の就農相談会での募集活動の継続。 ・ホームページでのPR、市町村就農関係者や農家子弟、農業高校への働きかけの強化。 ・卒業生の就農後の活動状況について積極的に情報発信していく。 ・農業経営開始希望者のニーズをとらえた、実践経営者コースのあり方を検討。	C
			○ 農業経営コースは、新たな観点から広く県内高校への訪問活動を行い、進路担当教諭へは民間企業ガイダンスを活用し理解を深めるとともに、生徒にとって必要なアドバイスができるよう情報提供を行ったか。 ○ 農業経営コースの平成30年度入学者の定員確保ができたか。 ○ 農業高校との一層の連携が図られたか。	○ 工業・商業高校及び進学校を除く高校77校に訪問した、進路担当教諭への説明を行った。(H28:74校) ○ サンデー見学会を通年で実施した(参加者30名うち応募者13名)。 ○ 高校の進路ガイダンスには極力参加し、本校の紹介や受験、オープンキャンパスへの参加を促した(3校)。 ○定員の確保はできる見込み。定員40名→応募者75名→合格者42名。 ○本年度から新たに農業高校生の就農を推進するため、農業高校代表・八ヶ岳実践大学校との「農大・農高の連携会議」を発足した(2回開催)。	・引き続きサンデー見学会や幅広い高校への募集活動を実施。 ・進路ガイダンスには引き続き積極的に参加。 ・農業高校との一層の連携強化を図っていく。	A
	ホームページの充実を図る	○ 専用サイトの各専攻のブログは、具体的目標を定めて更新できたか。 ○ 改革を進めている農大の教育内容や就農支援を、同窓生の活躍の様子などを、農業関係者、教育関係者や広く県民に発信できたか。 ○ 入試案内、行事等を計画的に紹介するなど、積極的に大学校のPRを行うことができたか。 ○ 広報委員会は定期的に開催されたか。	○専用サイトのブログ更新は各職員により頻繁に行われて(167回)、改革を進めている農大の教育内容や就農支援、同窓生の活躍の様子などを発信し、アクセス件数は23,762件(前年比119%)となった。但し、各専攻による差はあった。 ○県ホームページの内容更新・プレスリリースなどで定期的な情報発信に努めた。 ○入試案内、行事等を6月・10月に定期更新しPRした。 ○5・10月に広報委員会を開催し、広報活動について協議した。 ○学生募集や授業、行事等については積極的に広報している(プレスリリース16件、新聞記事掲載8件、テレビ報道9件)。	・引き続き、ホームページ・ブログなどで情報発信に努める。 ・定期的に広報委員会の開催を行う。	A	
その他	予算執行の適正化を図る	○ 計画的な予算執行と無駄を無くすため、農場は専攻別に、管理運営は費目別に執行状況を管理できたか。	○農場は専攻別に、管理運営費は費目別に予算執行状況を整理した上で、全職員に毎月情報提供し、計画的な予算執行に努めた。	・引き続き効率的な予算執行に努める。	B	